

1. 活動の概要

5月12日(金)、松江市立生馬小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。まず校区の遺跡地図を見ながら遺跡がたくさん学校周辺にあることを学びました。学校の向かいにある山の上にも古墳があることがわかって驚きの声が上がっていました。地図で学習した後は校区近くで出土した本物の土器に触ってみました。本物の土器に触れるのは皆さん初めてだったようで最初は緊張気味でしたが、徐々に慣れてきて土器の臭いをかいだり、ひっくり返して底を観察する生徒もいて、形や表面の様子が違うことに気づいたようです。

次は奈良時代の学習です。今回は奈良時代に東大寺で建立された大仏の大きさを実際に体験する学習です。まず、映像で大仏建立の方法について学びました。そして、大仏の等身大パネルの組み立てを行いました。当日は保護者の方も授業に参加されていたので一緒に組み立てを行いました。

皆さん一生懸命組み立てた結果、10数分で完成しました。残った時間で完成した大仏を観察し、頭の「らほつ」の大きさや、おでこの「びやくごう」の意味を知って、驚きやら納得の表情を浮かべていました。本物の奈良の大仏を見たことがない生徒の皆さんも大仏の大きさに圧倒されていました。

2. 活動の様子

1)本物の土器に触れる



2)実際に触った古代の土器



3)大仏の作り方を学ぶ



4)等身大の大仏パネルを組み立てる



3. 子ども塾を終えて

1) 生徒の感想

- 本物の土器に触ることができてうれしかった。
- 発掘体験をしてみたい。
- 大仏の大きさが体育館いっぱいになる大きさにびっくりした。
- 奈良の大仏を見てみたい。

2)担任の先生から…

- 座学が多い社会科の授業で体験型の活動は良かったです。参加した保護者も喜ぶ内容でした。
- 年1回ではなく複数回体験できるといいと思います。

3)埋文センターから

おとなしい印象の生徒さんたちでしたが、本物の土器に触るときは細かく観察したり、臭いをかいだり、疑問に思ったことを質問するなど積極性が見られました。学校の周りに古墳があることがわかって身近に遺跡があることがよくわかってもらえたようです。生徒と保護者の皆さんで大仏パネルは組み立てました。本物の大仏の大きさを皆さんで体感できたと思います。授業時間がもう少しあればさらに内容を深められたと思います。